

1. 基本情報

- (1) 国名：マダガスカル共和国（以下「マダガスカル」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：アナラマンガ県、アロチャ・マングル県、ブングラバ県
- (3) 案件名：種子生産圃場及び施設整備計画（The Project for Development of Seed Production Field and Facilities）
- (4) 計画の要約：本計画は、コメの認証種子及び認証種子の生産に必要な原種種子の生産・管理を担う機関の施設及び機材を整備・改修することにより、生産性の高い認証種子の増産を図り、もってマダガスカルにおけるコメの自給達成及び生産量の増大に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

マダガスカルは、アジアとアフリカを繋ぐ主要な海洋航路上にあるなど、「自由で開かれたインド太平洋」の実現における重要なパートナーであるとともに、日本企業のアフリカ進出のゲートウェイとしても重要な役割を果たし得る我が国のパートナーである。また、マダガスカルは、これまで国連の安保理改革や各種国際選挙とする国際場裡において我が国の立場を支持するなど、我が国と重要な協力関係にある。我が国はこれまでも技術協力等で農業分野における支援を実施してきており、またマダガスカルでは「国家稲作振興戦略」を定めて稲作事業を推進していることから、我が国への期待が大きい。ついては、本計画はマダガスカルとの二国間関係強化に資することから高い外交的意義を有する。

- (2) 当該国における稲作セクターの現状・課題及び本計画の位置付け

マダガスカルでは国民の8割が農業に従事し、うち約9割が生産に携わるコメは、農家世帯収入の42%、全耕地面積の55%（国家稲作振興戦略2016-2020）を占める基幹作物である。農業・畜産・水産省（以下「MAEP」という。）は「セクタープログラム（2019-2023）」において、「村落開発の推進」と「農業ポテンシャルの有効活用と農産物の加工と輸出」を開発方針の主要な柱に掲げ、コメ自給（2016年の自給率は90%、米農務省海外農業局）の早期達成及び生産量の増大（2018年のコメ生産量は403万トン、FAOSTAT）を目標としている。特に2020年3月以降は、新型コロナウイルス流行によるコメ生産・流通の停滞、これによる貧困及び脆弱層の拡大が懸念されており、マダガスカル政府はコメの安定的生産を通じた食料安全保障の強化を最優先課題の一つとしている。MAEPは、コメの生産性向上に欠かせない高品質で優良な種子の普及に向け、「国家稲作振興戦略」において、品質と競争力の高い種子の全国普及を目指し、改良技術を組み合わせると通常の2、3倍の単収増が期待できる認証種子の増産を目指している。その結果、2016年に年間940トンであった生産量は2019年には年間1,700トンに増加したが、目標量の2割弱に留まっている。アフリカ稲作振興のための共同体フェーズ2（CARD2）の枠組みにおいてマダガスカル

ル政府はコメの生産を更に増やし、輸出を拡大することとしているが、認証種子の不足がその足かせとなっている。

この原因として、全国の認証種子の約8割を生産しているアロチャ・マングル県とブングラバ県では、認証種子生産に必要な原種種子の生産計画策定及び生産を担う国立農村開発応用研究所（以下「FOFIFA」という。）の両県の試験場及び原種生産圃場における灌漑施設の老朽化、圃場の均平性の悪さ及び農業機械の不足により、原種生産能力が期待される半分以下に留まっていることが挙げられる。更に、認証種子の約2割を生産している種子増殖公社（以下「CMS」という。）のアロチャ・マングル県農場でも種子生産性が低く、その向上が課題となっている。加えて、認証種子の検査・認証を所管する種子管理局（以下「SOC」という。）では、認証機材の不足や施設の老朽化により効率的な種子の認証ができていない。本計画では、関連施設や機材を整備し、認証種子生産に係る機関の機能強化を図り、認証種子の生産量増大を目指すもので、技術協力による認証種子を含む稲作技術の開発と普及とあわせて、コメの生産量増大に貢献する。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

【施設】 FOFIFA 本部の施設改修、FOFIFA アロチャ・マングル県及びブングラバ県研究所の灌漑施設改修、SOC の施設改修、CMS の施設・圃場改修

【機材】 FOFIFA アロチャ・マングル県及びブングラバ県研究所への農業機械（田植え機・トラクター等）、SOC への種子認証用検査機器（乾燥機・化学検査用機材等）、CMS への種子生産のための農業機械（田植え機・トラクター等）の整備

② 期待される開発効果：認証種子の検査数、販売量（2019年約200トン）及び生産量（2019年約1,700トン）等の増大により、コメの生産量増大への貢献が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：農業・畜産・水産省（MAEP）

④ 運営／維持管理体制：FOFIFA、SOC 及び CMS の灌漑施設、研究施設及び機械は MAEP の管轄下であり、維持管理体制については同省が責任を担う。これまで農業分野における技術協力・無償資金協力を実施してきており、運営・維持管理体制に特段の問題は認められないものの、予算が適切に配賦されるよう改めて協力準備調査にて確認する。

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮 カテゴリ分類：B
- ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ウガンダ共和国向け無償資金協力「稲研究・研修センター建設計画」（評価年度：2017年）の事後評価等では、実施機関において、研究・研修活動や整備された施設・機器類の維持管理に係る政府からの予算配賦が十分でない可能性が想定される場合、無償資金協力事業で整備した研修室、種子生産圃場、農機具等機材を活用した収入創出活動ができないか、計画段階で検討することが望ましいとしており、本事業におい

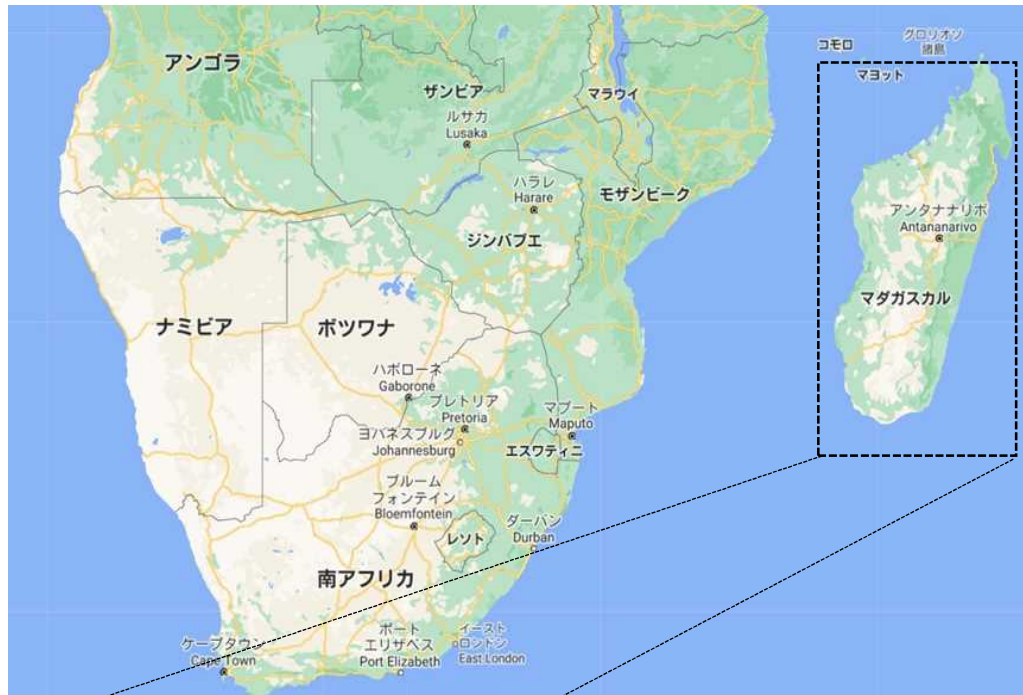
てもその可能性を検討する。

以 上

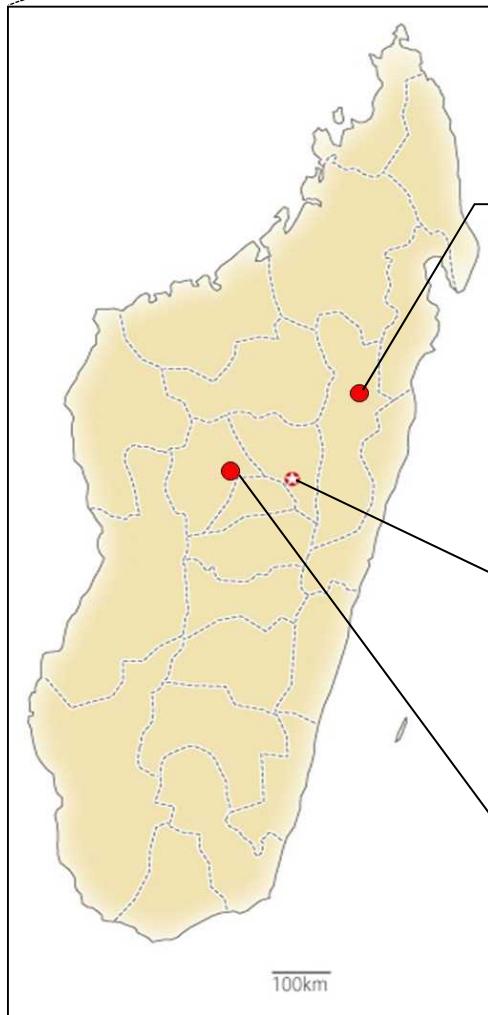
[別添資料] 地図

[別添資料] 写真

種子生産圃場及び施設整備計画 地図



【出典：Google Maps】



アロチャ・マンゲル県
・ 国立農村開発応用研究所 (FOFIFA) 県試験場
・ 種子増殖公社 (CMS)

アナラマンガ県
・ FOFIFA 本部
・ 種子管理局 (SOC)

ブングラバ県
・ FOFIFA 県試験場

種子生産圃場・施設整備計画 写真



CMS 種子生産圃場。均一でないためイネの生育にばらつきが生じる。【撮影：JICA】